

Q&A

後天性免疫不全症候群患者の血便 (hematochezia in AIDS patients)

【問 題】

症例：46歳，男性。

主訴：発熱，倦怠感，血便。

既往歴：アメーバ赤痢。

家族歴：特記事項なし。

生活歴：喫煙なし。飲酒 ビール 700ml/日。

現病歴：44歳の時血便を契機にアメーバ赤痢と

診断され，その後の精査でヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症が判明した。抗 HIV 薬を導入予定であったが通院を自己中断。2年後に発熱，倦怠感，血便を主訴に受診し，精査目的で入院となった。入院後大腸内視鏡検査を施行した。

血液検査所見：WBC 1800/ μ l (SEG 51%，STAB 28%，LY 10%，MONO 9%，EOS 2%)，Hb 10.4g/dl，Plt 25.6 万/ μ l，CRP 1.22mg/dl，HIV-1RNA 2.3

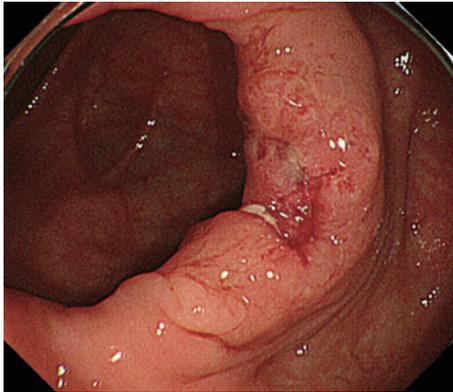


Figure 1. 横行結腸の内視鏡所見①.

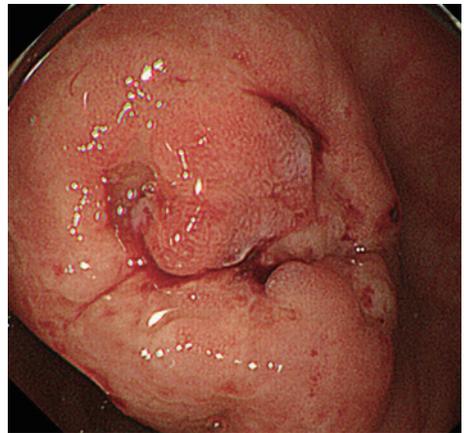


Figure 3. 横行結腸の内視鏡所見③.

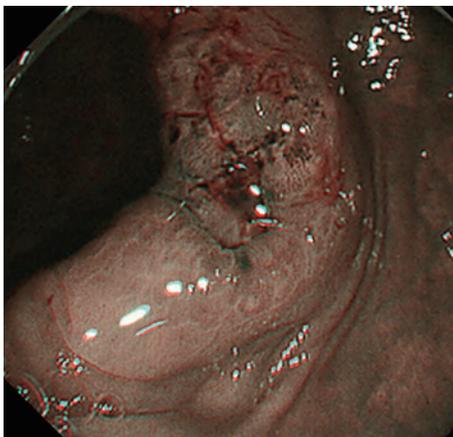


Figure 2. 横行結腸の内視鏡所見②.

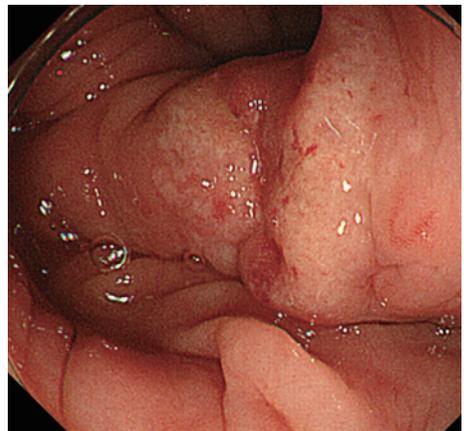


Figure 4. 横行結腸の内視鏡所見④.

$\times 10^6/ml$, T-SPOT 陰性, CD4 陽性細胞数 $10/\mu l$.
横行結腸の内視鏡像 (Figure 1~4) を示す.

診断は？